

平成19年6月21日

### 3号機廃棄物処理建屋における水漏れに関する調査結果について

定格熱出力一定運転中の3号機において、平成19年5月29日、委託運転員が、廃棄物処理建屋の地下1階にある機器ドレンサンプ\*1（以下、「当該サンプ」）から溢れたことによる水たまりを発見いたしました。

当該サンプに設置された機器ドレンサンプポンプは、出口弁を点検するため、5月25日より自動起動防止の処置を行っていたことがわかりましたが、今後、漏えいの原因について調査いたします。

なお、漏えい水は堰内にとどまっており、漏えい量は約40リットル、放射エネルギーは約 $6.4 \times 10^3$ ベクレルで、回収および拭き取りによる清掃を実施いたしました。これによる外部への放射能の影響はありません。

（平成19年5月30日お知らせ済み）

調査の結果、事象発生当時は、当該サンプへの流入元である活性炭ホールドアップ建屋\*2の機器ドレンサンプポンプ（以下、「流入元ポンプ」）が自動起動しており、そこで汲み上げられた水が当該サンプに流入し、その影響で水が溢れたことがわかりました。

漏えいの原因は、当直および作業主管グループの事前検討において、流入元ポンプの至近の運転間隔が、出口弁の点検期間を上回っていたため自動起動しないと判断し、流入元ポンプの自動起動防止処置や当該サンプへ流入した場合の排水対策を行わなかったことによるものでした。

対策として、ドレンサンプポンプの自動起動防止処置を行う場合は、運転状況では判断せず、流入元ポンプの自動起動防止処置を行い、自動起動防止処置ができない場合には、流入した水を仮設プールに汲み上げるなどの排水対策を実施することを関係者へ周知し、再発防止に努めてまいります。

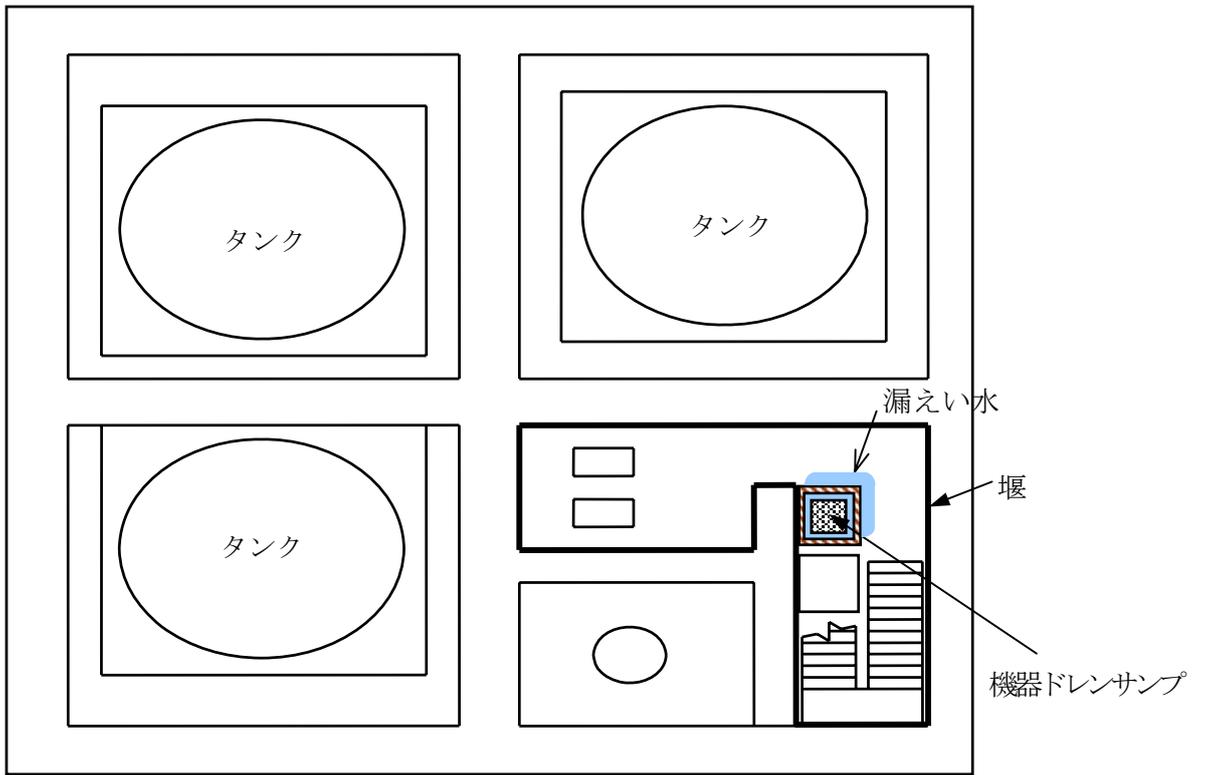
以上

\*1 機器ドレンサンプ

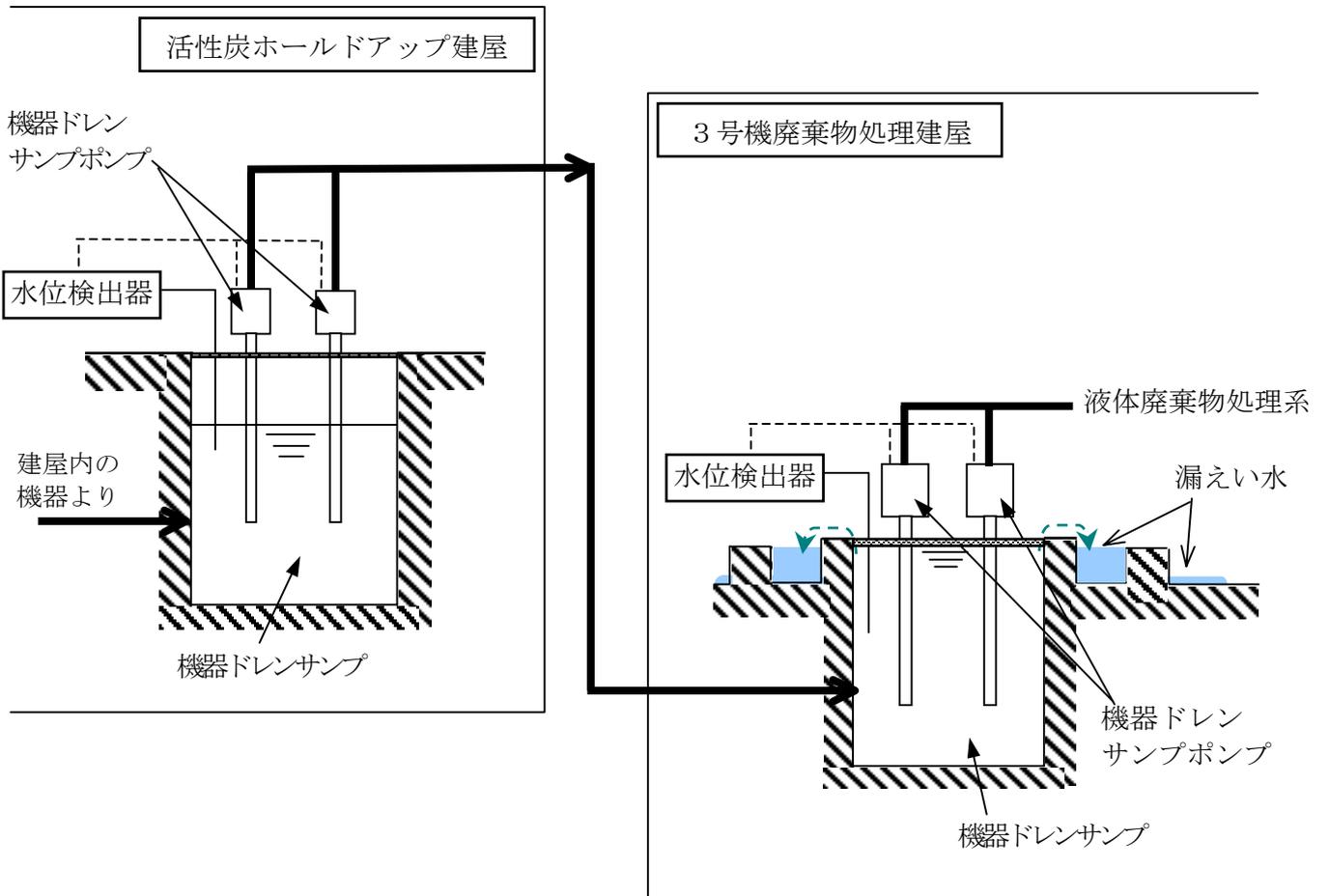
各建屋内の機器（ポンプ・配管等）からの排水・漏えい水などを処理するために一時貯蔵する槽。

\*2 活性炭ホールドアップ建屋

原子炉から発生する放射性希ガスを、気体廃棄物処理系に設置された活性炭フィルターで吸着することにより、放射能を減衰させる装置などを収納する建屋。



3号機廃棄物処理建屋 地下1階 水漏れ状況



3号機廃棄物処理建屋における水漏れ概略図